

# 優良農地を大区画化するとともに韃靼そばの粗放的な生産方法を確立し、条件不利地の荒廃を防止

お う む ち ょ う  
〔北海道雄武町〕

|              |       |            |          |
|--------------|-------|------------|----------|
| 新規就農         | 企業参入  | 6次産業化      | 農地中間管理機構 |
| 粗放的利用・スマート農業 | 鳥獣害対策 | 地域・集落の共同活動 | その他      |

## 1. 地域農業の状況

- 北海道雄武町はオホーツク海に面し、夏はオホーツク海高気圧の影響を受け気温が上がらず、冬は厳しい豪雪地帯。
- 土壌が重粘土地のため、酪農を中心とした大規模土地利用型農業に特化した地域。
- 地域特有の重粘土地に加え石礫も多いため、牧草の収量が見込めないことから耕作を放棄した草地が多く、笹や雑草が繁茂し、荒廃農地等が発生している。
- 平成21年に雄武町耕作放棄地対策協議会（以下「協議会」という。）が発足し、平成25年度に176haあった荒廃農地を令和2年度には31haまで減少させたが、高齢化に伴う離農や土地条件などによる荒廃化が進む農地の受け皿が課題となっている。



## 2. 地区概要

取組主体 雄武町耕作放棄地対策協議会

再生面積 19.5ha

作付作物 韃靼そば、緑肥作物（クローバー）

地区名 おうむ・かみほろない  
雄武・上幌内地区

取組年次 令和3年～

販路 小売店、インターネット

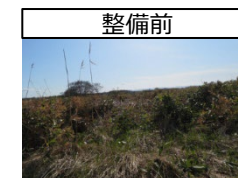
## 3. 取組内容及び効果

### 最適土地利用対策を活用し、農地の荒廃を防止

- 荒廃農地及び荒廃の恐れのある農地を明確化し、今後の地域の土地利用計画の方向性を定め、持続的に農地を保全管理する体制を構築するため、協議会が中心となり、令和3年度より最適土地利用対策による地域ぐるみの話し合いを通じた農用地保全の取組を開始。
- 条件の良い農地は農業生産区域とし、国営緊急農地再編整備事業等で圃場の大区画化を実施し、情報通信環境整備や自動操舵技術の導入などスマート農業を推進。
- 土壌条件の悪い農地は粗放的利用区域とし、緑肥作物の作付け・すき込みによる地力増進で土地の持続性が図られるとともに、低コストな基盤整備による作付け面積の拡大により、地域の特産物である韃靼そばの収益向上を図るための体制整備が図られた。
- 事業完了後は、過去に荒廃農地を再生した実績があり、持続的利用を実現できる組織体制を有する地域の農業生産法人へ管理を移行することとしている。



地域内での話し合いの様子



整備前



整備後



地域の特産物の「韃靼そば」

